

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Somdetpittayakom School



廿日市市立佐伯中学校

交流の概要

学 年：第2学年

単元名：Unit 1 What can we experience on a trip?

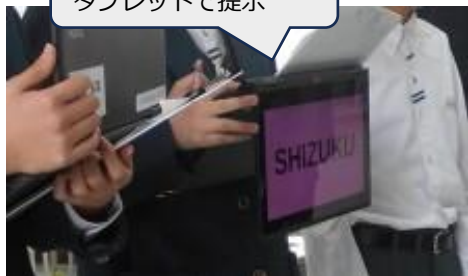
Unit 2 What is local food?

Unit 4 What is important in a homestay?

(NEW HORIZON English Course2)

ねらい：身近な話題や興味・関心のあることについて、伝えたり、尋ねたりすることができる。

交流時に自分の名前を
タブレットで提示



電子黒板を使ってGoogle Meet
でグループ交流



活動内容：

①メンバー紹介（グループ）

グループの代表が全員の名前を紹介した後、一人一人が詳しく自己紹介をした。

②自己紹介+Small Talk（グループ）

名前の他に、自分の好きなものや人物等について、画像を見せながら紹介したり、クイズ形式でやり取りし、即興でのやり取りを行った。

自己紹介の際、相手に伝わりやすくするため、自分の名前をタブレットで提示した。実際に、相手校の生徒が声に出して読んでいて、生徒も喜んでた。

③年賀カードを作成・送付（グループ）

各グループで新年を祝うカードを作成し、英文と共にグループ写真を添付して相手校に送付した。



※電子黒板を使って2つの教室で同時にグループで交流をした。各グループが20分間の交流が行えるように時間設定をした。

※本校の生徒が率先して、交流会を進めるように事前に指導した。

«交流方法：Google Meet»

大切にしたこと

- ・生徒同士の交流時間を十分確保するため、全体会を行わず、開始時刻からすぐに1グループ20分間のグループ交流を行った。
- ・交流で話す内容は、生徒の身近な話題や興味・関心のあることにし、「やり取り」を重視させた。事前に「やり取り」に必要ななりそうな表現を生徒から出させ、繰り返し練習させた。
- ・生徒だけで交流をすすめさせるために、グループ交流の始め方や終わり方の表現を事前に指導し、教員はタイムマネジメントに徹した。
- ・交流した内容を記録に残すことを事前に伝えることで、生徒は分からなかったことをそのままにせず、聞き返す等して、相手からの情報を理解しようとしていた。
- ・交流時の目標は、「完璧な英語を話すこと」ではなく「楽しむこと」であることを繰り返し伝えた。

生徒の声

- ・英語で即興で話すことは難しかったけれど、とても楽しかった。
- ・交流をしてみてタイの知らない場所などが知れて良かった。もっといっぱい英語を勉強して色々な外国の人と話せるようにしたい。
- ・一生懸命聞き取ろうとしてくれて嬉しかった。時間が足りない。直接会ってみたい。
- ・私もタイの人たちを見習って英語がべらべらになるくらいまで勉強しようと思った。
- ・分からないことはそのままにせず、聞くことが大事だと分かった。詳しく説明してくれたり、画像を見せて説明してくれたりして、理解することができた。

交流を終えて

先生の声

- ・普段使用している教室から海外校と学年の全生徒が繋がり、英語でコミュニケーションを図ることができ、大変意義があった。
- ・交流前のアンケート結果と比べ、どの項目も肯定的回答の割合が高くなった。英語を学習する本質的な意義を体験させることで、英語学習への意識を向上させることができたと思う。
- ・英語を使って外国の方と交流を楽しむ生徒の姿を見ることは、英語教師冥利に尽きる。生徒の姿から、自分自身の授業の成果と課題を確認することができた。